

この紙のゴール：同じ英文を5つの段で読み、1回目と最後の変化だけを記録する

音読の回数を増やしても読みが変わらないのは、**段を飛ばしている**からです。意味が取れる前に何十回読んでも、口が慣れるだけで速さも切れ目も動きません。この紙は、聞くところから見ないで言えるところまでを5つの段に分け、1本の英文につき**1回目と最後**だけを記録します。

5つの段 上から順に。段を飛ばさないことだけが条件です

段	やること	先生の合図	次へ進む目安
1	本文を見ないで聞く（2回）	Close your books. Just listen.	意味のかたまりの切れ目が耳で分かる
2	本文を見ながら音に重ねる	Read along. Don't stop.	音から遅れずについていける
3	意味のかたまりで区切って読む	Read in chunks. Pause where it makes sense.	区切る位置を自分で決められる
4	1文を見て、顔を上げて言う	Look up, then say it.	1文をひと息で言える
5	キーワードだけ見て言う	Only the key words. Say it in your own voice.	止まっても自分で戻れる

段3の区切りを先生が引いてしまわないこと。どこで切るかを自分で決められるようになることが、そのまま読解の力になります。

記録 1本につき1行。進んだところまでの段の数字を書きます

日付	本文（ページ・題）	進んだ段	1回目 秒	最後 秒	気づいたこと
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					

秒は**同じ英文の中**だけで比べます。ほかの英文とも、ほかの人とも比べません。音読は速さを競わせると、意味を捨てて口だけが速くなります。

自分で見るところ

- ・止まった回数が減ったか（速くなったか、ではありません）
- ・息継ぎが単語の途中に入っていないか。意味のかたまりで切れているか
- ・段4で、顔を上げていられる時間が長くなったか

音読の段と記録 | 段の置き方と、評価への使い方

1コマのどこに置くか 帯は5分のまま。増やすのは時間ではなく段です

場面	段	時間	ねらい
新出本文の直後	1→2	5分	音を先に入れる。意味が取れる前に段3以降へ行かない
内容理解のあと	3	5分	切れ目を自分で決めさせる。ここが読解とつながる
次の時間の帯	4	5分	前の時間の本文で。新しい本文には使わない
単元の終わり	5	5分	評価に使うならここ

同じ本文を4時間かけて段1から段5まで運びます。1時間で5段を全部やると、どの段も浅いまま終わります。

40人での回し方

- ・段1・2は**一斉**。全員が同じ速さで動く時間なので、ここで個人差は出しません
- ・段3・4は**ペア**。読み手と聞き手を交代し、聞き手が数えるのは「止まった回数」だけ。発音は直させません（直させ合うと声が小さくなります）
- ・段5は**個人**。全員が同時に別々の速さで読みます。声の大きさはそろえません
- ・音読テストにするなら段4か段5の**1文**だけ。本文まるごとを1人ずつ聞くと、40人で1コマが消えます

見取り 3つだけ。発音の正確さは入れません

見るところ	Aとするのはどんな読みか
区切り	意味のかたまりで切れている（単語の途中で息継ぎをしない）
止まり	止まっても自分で戻り、最後まで落ちない
伝わり方	聞き手が聞き返さずに意味を取れる

発音の正確さを入れると、音読は矯正の時間になり、生徒は声を小さくします。評定に使うのは知識・技能（音声で表現する技能）で、態度の材料には使いません。

音読が効かないときの3つの型

- ・意味が取れる前に読ませている（段1・2を飛ばして、いきなり段3から入っている）
- ・回数だけを数えている（「10回読んだ」が記録になっていて、何が変わったかが残っていない）
- ・全員に同じ段をやらせている（段4で止まる生徒と段5まで行ける生徒が、同じ紙を持っている）

つながる紙

速読ラダーとは軸が違います（こちらは黙読でタイムを測り、WPMを連番で並べる紙）。音読は口が追いつく速さで頭打ちになるので、速さでは伸びが見えません。記録を学期末に評定へ落とすときは、**学期の記録簿**の知識・技能の列へ。実演で測るなら**パフォーマンステスト**の2点をどうぞ。

